

## 編集室から

末娘が進学しました。高校進学の際に、僕のお古のノートPCをあげたのですが、さすがに古くて処理が遅いので、新調することにしました。僕が普段使っているのは、仕事用ですから20万ほどもするものなのですが、大学生とはいえ文系なので、そこまではいらないうと最近流行のネットPCを眺めました。

一時期100円パソコンとして騒がれたものですが、それはインターネットの月額経費に価格を分割して載せただけで実質的には同じです。キャッチとしては素晴らしい効果があって一気にパソコンの1ジャンルを確立した感があります。さて、印象は兎も角、生業にもしているのいい加減な選択はできません。その実力は如何に…。まずDVDの再生も問題なくできることには驚きました。画面はやはり小さいのですが、キーボードもそこそこ打てる大きさです。必要最小限のソフトしか入っていないのも、好きなソフトを入れたい人には返って親切です。というのも、WindowsPCは、ソフトを削除すると遅くなってしまふのです…(^\_^;ゞ

これでたったの3万円少しとは、凄い世の中になったものです。従来のノートPCが売れなくなってメーカーも大変なのも納得です。(o^o^o)b

さすがに手軽なだけあって、DVDドライブなどは付いていませんので(付属する機種もあり)あまり使わないポータブルドライブと、使わなくなった無線ルータを付けてあげて、娘の下宿部屋はとっても快適V(^o^v)おまけに、光回線でネットも超速い!これならネットで動画を見るネットTVや映画もお茶の子芥々ですな。

この世界、ちょっと見る間に強烈な進歩を遂げるので、うっかりしていると僕らでもついていけなくなりそうです。

さて本号で100号になりました。皆様からの篤い応援に、心から感謝申し上げます。(は)

このニュースは、計画に携わる若手の技術者を育てることを目的に発行を始めました。その後、計画という仕事の内容や、普段、計画マンがどのようなことを考えているのかなどに触れて、少しでも業界を知っていただければと考えて編集しています。



2009/04

(株)アスリック

<http://www.neting.or.jp/usric>

〒920-1167

石川県金沢市もりの里1-149-302

電話 076-233-7217

Fax 076-233-7375

Email [usric@neting.or.jp](mailto:usric@neting.or.jp)

2009/04

(株)アスリック

<http://www.neting.or.jp/usric>

## 卯 月



遠州横須賀・三熊野神社大祭  
by hama

## 寄稿『富士山静岡空港が開港する』

富士山静岡空港（株） 吉岡徹郎

富士山静岡空港が今年の6月4日に開港するが、石川県の皆さんはこの空港のことや静岡県のことをどの程度ご存知だろうか？「富士山」はともかく、テレビの「ママーシャルが流した」、「富士宮焼きそば」とか、「静岡おでん」程度しかご存知ないと思うのだが、如何だろうか？

静岡県人は富士山という世界に誇る、優れた財産を持っているお陰で、他所の方々もみんな静岡県のことを知っていると考えがちである。

これは虫の良い話で、実は遠来のお客様は静岡県を何にも知らないのだよと、講演なんかでいうのだが、聞く人はそうかなあという顔をする。だから、私は、能登半島がある石川県のことが分かりますか？良く分からないと思うが、それと同じですよ、じつと少し納得する。そんなことで、富士山を指し、静岡県へいらっしゃるお客様に、ごじまじご満足いただけるご案内が出来るのか、これから頑張ってくださいまして、関係者には訴えている。

さて、富士山静岡空港の開港を機に、小松空港と静岡空港に定期路線が敷かれ、開港1か月後の7月から1日2便運航されることが決まっ

た。加賀百万石の城下町・金沢と徳川の隠居所・静岡、格が違うというかも知れないが、私自身は金沢と静岡の新たな交流が始まることを楽しみに思っている。それは、金沢へは2回しか行ってないが、街の雰囲気には好印象があることに加えて、私の回りに金沢から静岡の大学へきて、そのまま静岡に居ついてしまった人（結構たくさん居る）から、向こうの話しを聞く機会が多かったからかもしれない。それだけに静岡空港から石川県に行く機会が多くなるであろうことを楽しみにしている。

富士山静岡空港は、静岡のような便利などになんて空港が必要かという議論から始まって、昨年には航空機が離着陸するのに邪魔になるという立ち木の除去問題などで全国的にその名前を知られるところとなった。最近の経済環境などを考えると、前途は厳しいが、この空港を造って本当に良かったといわれるように、県民挙げて頑張らねばならない。石川県の皆さんにも大いにご利用いただくことを心から願う次第である。



【プロフィール】

（よしおか てるかつ）

5年前に開催した「浜名湖花博」の指揮を執り、現在は6月に控えた開港準備に当たっている。老体に鞭打つ六十六歳。

## 濱のいびきを 『百号御礼』

じつじつとしたニュースレターを始めると、数字の区切りは必ず訪れるものだが、それにしても百号を迎えられるとは全く想像だにしていなかった。それだけ毎月こつこつと繰り返してきたのだと思う。

このニュースは二十一年の正月に第一号を発行して以来、丸八年を越えたことになる。その間、一箇月も休むことなく無事発行し続けてこられたことは、思えばほんとうに有難い事だ。

私事で大変恐縮だが、百ヶ月間一月も欠かさずコラムを書き続けるという貴重な体験もさせていただいている。よく「ネタが尽きないか？」とお尋ねを頂く。搾り出すのに難渋する月もあるにはあるが、不思議に何とか間に合っていることも、しつこく有難いと思うのである。

この百回の発行の間に、数回ご寄稿を頂戴できない号があったものの、ほぼ回数と同じ人数の方々にご寄稿を頂戴し続けてきた。紙面も倍となり、レギュラーとして執筆をお願いしていただける方々は、交代しつつも増えた。また、第一号からの読者の方々も少なくなない。近号では、陰で寄稿のお願いを取り次いで発行を応援してくれている方もあり、このよゆうな方々の無償の善意無くして継続することは、あり得ない。

営業には殆ど関係の無いニュースレターの発行は、世

知辛い世情にあつては無意味のようでもあるが、このよゆうな場がなければ、お世話を頂く有難さを実感する機会は、少なかつたかも知れない。

「人の世話にならたくない」という人がある。本当に誰からも世話にならずに、この世を生きていることができるのだろうか。

学校での授業の科目としてはなく、「社会とは何か」について、働き始めてから考え続けていた。三十歳を少し過ぎた頃だったと思う。それは「関係性の連鎖である」と気付いた。人間は社会的動物であるという。その人間としての特長の一つである社会性を発展させることが、人間性をも豊かにさせはしまいか。ならば、他の人々との関係性の連鎖を自覚し、その中に生き切る事こそ、最も人間性を豊かに育ててくれることになりはしないだろうか。

甚だささやかなニュースレターではあるが、これまで、そしてこれからの多くの方々からの暖かいご協力・ご支援・応援を頂くこととなろう。「編集方針の無い」このレターは、多くの方々の支えを心に、続けて行きたいと願っている。そして、このニュースレターの発行を通じて、人様にお世話になり続けていることを、決して忘れない機会として行きたい。

毎号、応援を頂き、お読みいただき、ほんとうに有難うございます。これからも引き続き御笑覧くださいます。

この3月28日から、「普通車の高速道路土曜、日曜、祝日1,000円乗り放題」がはじまった。巷では高速道路利用の促進、経済効果など、歓迎する空気が濃いけど甚だ短絡的な疑問である。

第1点は、その料金設定の無謀さである。これほどの価格破壊もあるまい。秋田中央ICから仙台宮城羽ICまで5,450円、川口JCTまで12,000円である。若干の割引制度ならともかく、経済効果を狙うにしても一般企業では考えられない感覚である。

第2点は、他の交通機関への影響であり、交通事業者の経営を揺るがすことになる。高速バス、フェリーなどを直撃する。また、高速バスの魅力は安さと比較的定時性が確保されていることであるが、この2つが満たされないとすると客は離れる。地方のバス会社にとっては、長距離高速バスが生命線といってもよい。すでに中四国を結ぶフェリーでは乗客が半減したところも出てきているという。地方の交通事業者の経営を圧迫してまで行う施策なのか。むしろやるのであれば、公共交通をどんどん利用しましょうという施策で、バスの高速道路料金を割り引き、利用者の料金引き下げにつなげるといったことの方がよいのではないか。

第3点は、今回の経済危機を逆によい機会として、経済、雇用、交通（物流・人流）移動などあらゆる面で自動車への依存を下げしていく施策が必要だったのではないかということである。無駄な車の利用は避け、この過剰な交通量を下げることこそいま必要なことであろう。車の利用を促進し、結局は過剰な消費を煽るだけなのではないか。

産業構造も自動車産業に過度に依存した構造から、脱する手だてをみつける好機にするべきである。

また、第4点として、二酸化炭素の排出規制、地球温暖化防止の流れへの逆行でもある。「環境にやさしく」というかけ声も空しく感じざるをえない。

## 相続について⑭

### 死亡保険金を受け取る権利と支払われ方

今回のケースは、父親の生命保険の受取人が兄弟になっているケースです。

#### Case Study

岩田さん(仮名)の父親と母親は、母親の金遣いが荒く借金を重ねたことが原因で、10年前に離婚していました。その際、父親の加入していた生命保険の死亡保険金受取人を、母親から岩田さんと弟に変更していました。

ところが、2週間前に岩田さんの父親が亡くなり、岩田さんが保険金を受け取る手続きを行いました。

そんな折、別れた母親から連絡があり、自分にも保険金を受け取る権利がある、だから保険会社から保険金の3分の1を直接自分の口座に振り込むように依頼してくれといわれました。

岩田さんは、父親名義の自宅や他の不動産を処分して、母親の借金返済の一部に充てたことなどを理由に、一切分ける意思の無いことを伝えたところ、裁判してでも保険金を分けてもらおう、と言い出しました。

#### Answer

今回のケースでは、生命保険金を受取人以外の者に保険会社がお金を払うかという点と、受取人が複数指定されている場合の支払い方法の2点をご説明します。

まず、民法では生命保険の死亡保険金は、受取人の固有の財産と規定されていますので、母親がどんなに騒いでも、裁判しても、母親にお支払いすることは一切ありません。ただし、支払われた保険金を受取人の意思で、第三者に支払うことは何ら問題はありません。その際お金を受け取られた方は、贈与税の申告が必要になります。

また、このケースのように、死亡保険金受取人が複数指定されている場合、受取人の間で代表で受け取る方を指定していただき、保険会社はその方に保険金全額をお支払いします。そして、受取人指定書に指定された受取割合で、その代表の方が、他の受取人の方に分配するということになります。

注意していただきたいのは、複数の人を死亡保険金受取人に指定した場合、保険会社は個々の受取人に直接支払うことはしないということです。

このような受け取りを指定されている方は、それが実情にあっているかご確認ください。

## 『富士の国から ～大魔神のたび～ 伊豆の旅』

静岡県観光局 溝口 久

年一度、愛媛県庁の友人が静岡県を2泊3日で旅に来る。今年は3月20日からの2泊3日だ。今回は伊豆の温泉を廻りたい、そして稲取温泉観光協会の渡邊法子事務局長に会いたいという2点が、彼らから頂戴したリクエストだ。

早速、稲取に連絡を入れたところ昨年稲取で開催した全国つるし飾りサミット（稲取、福岡県柳川、山形県酒田）を今年はこの日に柳川でやるため留守とのこと、残念かなわす。ならば隣の熱川温泉を1泊目に、もう1泊を天城湯ヶ島温泉に、海の温泉場と山の温泉場をセットした。

愛媛県庁の田中さんは、松山からは夜行列車で早朝5:45に熱海駅に着くという。風呂に入り一休みし、アジの干物で朝食をとりたいところだが、早朝にそんなことしてくれる宿はないだろうなあ。

1月にお会いしたばかりの熱海市観光協会長の森田さんの顔が浮かんだ。歴代の観光協会長に比べ相当に若く、最近では別府のオンパクよろしく熱海温泉玉手箱略して「熱海オンたま」と称した芸妓遊びをはじめ20種類の地元企画の旅行商品を立上げ、新たな試みにチャレンジしている旬の人だ。氏の旅館「聚楽」をお願いしたところ、部屋は満室で用意できないけど風呂と朝食ならばと喜んでくださった。ありがたい。

当日の朝は荒れ模様の天気、私が到着する時刻まで街中を散策するところではないので、風呂で2時間も過ごしたとのこと、フルマラソンはできないけど風呂マラソンならできると言うだけのことはある。

合流後は、伊東線「伊豆多賀駅」で下車し、高専の先輩の富岡さんが経営する旅館「ニューとみよし」に向かった。玄関には今回の運転手を頼んだ静岡県賀茂健康福祉センターで生活保護を担当している石田君が既に待っていた。かれは20代だ、自分の父親並のおじさん4人の伊豆の旅に同行してくれるのだ。ありがたい限りである。

静岡県では富士宮やきそば、静岡おでん、浜松餃子、袋井たまごふわふわ、磐田おもしろ、裾野水餃子などB級ご当地グルメが盛んな地である。ここ熱海網代では「いかめんち」が評判になってきている。ここわずか一年のことだ。麒麟麦酒ともタイアップして売り出し方がうまい。イカはじめ魚のすり身を混ぜ合わせ揚げたもので、昔はおやつ代わりに食していたよ

うだ。ここ伺うには、イカめんちをご馳走になることともう一つの目的があった。

市の行財政改革に民間人を活用と考えた市長から白羽の矢があったのが、ここの主の富岡さんだ。その主の話聞くことを楽しみにしていた。

氏は富士通でシステムエンジニアを勤め、コンビニの店舗システムを次々と立上げた経験から流通にも明るい。漁業と民宿の兼業の家に育った氏に転機が訪れた。

「帰ってきて宿泊業をやりなさい」と母の声、技術者として生きようと、決めていたのに、親には逆らえず、良いことあるのかと思ひ、結婚を契機に戻ってきた。

「保証人は全部引き受けるけど、自分の力でやりなさい」と、いきなり土地4千万と建物6千万で、1億円の借金不慣れで何もわかっていない夫婦の経営で、宿はスタートした。

世は右肩上がりの時代、3人の子を育てながら捻りはちまきで、13年間で完済。ほっとしたのもつかの間、今度は近所のレストランとホテルを買ってくれと、ノンバンクに追い立てられている知人に泣いて頼まれた。銀行からも「君ならやれる！」と、おだてられ、首のすげ替えじゃないかと思いつつも今度は4億以上の借金を背負うことになった。さすがのおふくろにも反対され、妻には別れたいと言われた。そんな空気になればなるほど頑張りたい、俺ならできる！

妙な自信のせいで地獄を見ることになった。

3ヶ月で、15Kg痩せた。寝ないと痩せる、苦しいってどういう事か、わかるようになった。あれから10年経ち、元の体重+10Kgになった。その銀行は破綻してしまっただけ、何とか稼働できる宿になった。そして今度は「市の為に、、、君ならできる！」との市長の声。

おだてに弱いこともあって、一肌脱ごうと心に決め、またまた妻の反対を押し切りいざ出陣と思ったら逆風。市長の目論みに議会は理解を示めさない。

逆風だからこそ、風のごとく天高く舞い上がればよい、そうすれば広い世界が見えてくる。苦勞している時こそ、人の心や情がわかるものだ。宿のおやじの鉄則は、決してめげないこと、言い訳しないこと・・・だと思っている。と富岡さんの話が続いた。

(次号に続く)